

社会福祉法人 札幌東勤労者医療福祉協会

札幌市

【子ども食堂「元気」】

①貧困にこだわらず、親子で立ち寄って食べていく、または一人暮らしのお年寄りの方に来ていただく等、そんな居場所作りになればという目的で2018年4月より、毎月1回第4木曜日16:30から勤医協リハビリデイサービス元気の場所をお借りし開催しています。

②小学校、児童会館等にチラシを配布しご案内しています。小学校、児童会館等に広がっています。保育園も一緒に取り組んでいますので、保育園の卒園児・在園児も参加し、そこがきっかけで地域の方に広がっています。毎月子ども20名、大人20名、ボランティア10名位の参加で運営しています。また、地域の方から、米、野菜など提供頂いています。

【子ども食堂『子リス食堂 MogMog』】

①この取組みは『子ども食堂』です。当法人の施設開放や地域住民に利用していただきたいと考えた時に、デイサービス終了後のフロアの活用を考えました。その中で、地域住民（民生児童委員など）から、子どもの孤食などに関する情報が聞かれ、社会福祉法人として高齢領域のみに捉われない、『共生』を意識した実践として、『子ども食堂』の検討を始めました。

②実施に至っては、多くの課題がありました…

I：食事提供を給食業者に委託することで、安心・安全な食事が提供できる

II：福まちと連携し、地域ボランティアを募集。マンパワーとして活躍してもらおう（給仕係・防犯パトロール・児童との関わりなど）

III：近隣の大学生ボランティアを募り、学習支援を展開

IV：生活支援ハウス（高齢）の利用者も食べにくるので、多世代交流になる

などの工夫により開店されています。

予想以上の来店者数で、多少の混雑はありますが、子ども達は楽しそうに食べたり・遊んだり・勉強したり？している姿が印象的です。リピーターも多く、この地区で求められた事業であったと感じています。

今後は下記の課題に加えて、障がい・発達障がいなどの児童にもご利用いただきたいと考えており、障がい分野との連携を模索しています。

課題としては、保健所・衛生面を考え「I」で運用していますが、事業費（食材費・人件費など）が一定以上かかってしまい、継続の困難さが考えられています。食材提供などを広く呼び掛けていくなど、事業費に関する課題が大きいです。また、児童として高学年（12・3歳以上）の参加は少なく、中学校や高校などへ情報発信もできたらと考えています。

学校との連携については、難しさ（壁）を感じる部分もあります。

【子ども食堂の開設】

①市内で初の子ども食堂を開設し、毎週2回希望する小中学生を対象に低額で夕食（カレーライス）を提供する。

②法人が運営している軽食・喫茶レストランを活用し17:30~18:30の1時間、子ども食堂事業として開放。全国的に短期間で閉鎖している要因を分析し、長く継続することを目標にまずは開店し、不都合な事は都度改善し取り組む事を優先した。

8月2日の開店以降、真に子ども食堂を必要とする家庭の子どもさんが4~5名定着して来店中。理事長の取組みに職員が追従し、ようやく開店の運びとなるが、従事するスタッフに積極性がようやく備わりつつある。